

努力した自分

金屋中・2 星野 瑠彩

「結果を報告します。」

これまででいちばん緊張した瞬間だった。不安と期待をもちながらその時を待った。コーチが名前を順に言っていた。最初はF G J合格メンバーだ。次々と名前が言われていった。二十六番目に私の名前が呼ばれた。一 氣に肩に入っていた力が抜け、ほっとした。

次は、選抜メンバーの発表だ。コーチが一人目、二人目の名前を言い終わり、三人目、

「るい」

と、私の名前が呼ばれた。私は驚いて目を大きく開け、大きな声をあげるのを我慢した。選ばれたのがうれしくて涙が出そうだった。

私は、チアダンスを習っている。小学一年生から習い始めた。チアダンスは重いポンポンを両手で持って踊るので疲れるけど、曲に合わせて大きく体を動かすことが楽しくて、私はチアダンスが大好きだ。

去年の七月。F G Jというトップチームのオーディションを受けた。その時、私はF G J歴三年目だった。次はF G J歴四年目になるし、オーディションに落ちるわけがないと思っていた。課題曲のダンスを踊れるようになればいいと、軽い気持ちで練習をしていた。

「もつと。パキ。パキ。踊った方がいい。」

「笑顔が足りない。」

「かっこよくない。」

と、お母さんからアドバイスされた。でも、思春期真最中だった私は、完璧に踊れていると思っていたので、聞く耳をもたなかった。

オーディションの日があつという間にきた。あまり緊張はしてい

なかった。本番は練習と同じように落ち着いて踊った。本番が終わり、待ち時間のときも気楽だった。

結果発表のときがきた。受かっていますようにと願った。どんな名前が呼ばれていく。ついにその時がきた。私の名前が呼ばれた。少しの緊張がぱつと解けた。無事F G Jの一員になることができた。その後、コーチに呼び出された。私は何だろうと不思議で困惑した。するとコーチにこう言われた。

「ぎりぎりで合格でした。落とそうか迷いました。期待していたからこそ、もう少し頑張れたと思った。」

私はその言葉を聞いて、頭が真っ白になった。今すぐに逃げたいと思った。涙が出てしまいうさそうだった。そこで自分のダンスは百二十パーセント出せていなかったと気づいた。その後、選抜メンバーの発表があった。選抜メンバーになれる人数は五人だ。コーチが選抜メンバーの名前を言い始めた。私の名前は呼ばれなかった。半分呼ばれないのは分かっていたけど、半分願っていた自分がいた。

帰り道も家に帰ってもずっと涙が止まらなかった。泣いても泣いても大粒の涙が次々と出る。呼吸ができなくなるくらいまで泣き続けた。本当に悔しかった。F G Jぎりぎり合格したこと、選抜メンバーになれなかったこと。一昨年は選抜メンバーに選ばれていたのに、より悔しさがあつた。きちんと真剣に練習をしなかった自分にいらついた。油断していた自分が嫌いになった。オーディション前の自分に戻れるなら戻りたいと思った。その日の夜はなかなか眠れなかった。

次の日。昨日コーチから言われた言葉がずっと心に残っていた。

このままずっと落ち込んでいたら何も成長しないと思い、技の練習をたくさんした。疲れるし、やりたくない、やめたいと思うことも何度もあつたけど、うまくなりたくない、来年は選抜メンバーになりたいという気持ちが勝ち、たくさん努力した。

今年の七月。またオーディションの時期がやってきた。今年はい

つもより気合いを入れて誰よりもたくさん練習した。手先から足まで伸びているか、全身で大きく踊れているか、チアとしていちばん大切な笑顔ができているか、たくさん気をつけることを自ら見つけ出し、動画を撮って、自分のダンスのどこをどんなふうにしたらいいのか自分なりに研究した。お母さんにも動画を見てもらい、アドバイスしてもらった。去年の私だったら聞きもしなかったけれど、今年の私はアドバイスをもとにどこをどんなふうにかせればかっこよく見せられるか一生懸命考えた。そのうちに自分では気づけなかったことを発見できた。

今年も絶対に選抜メンバーになってみせると熱い気持ちをもって練習に挑んだ。踊るのはすごく疲れるけど、見返したいという気持ちで勝っていた。でも選抜メンバーになれないかもしれないと不安な気持ちもあり、オーデイションの日が来るのが少し怖かった。それでもやるしかないと思い、何度も何度も繰り返しダンスの練習をした。

いよいよオーデイションの日がきた。緊張であまり眠れなかった。毎年オーデイションの会場に向かうまでの時間は長く感じていたけれど、今年は上手く踊れるか不安でたくさん考え事をしていたらあつという間に会場に着いた。会場の中に入ると、空気がぱつと変わった気がした。

自分の順番が近づくにつれて、どきどきが増していった。もうすぐ自分の順番がくると思うと落ち着かなかつた。今までのオーデイションの中でいちばん緊張していた。手汗も止まらないし、頭も真っ白になり、不安でいっぱいだった。周りを見ると、みんなも真剣な顔をしていて、いつもの雰囲気とは違った。みんな受かりたい、選抜メンバーになりたいという気持ちが伝わってきた。私も負けられない、たくさん練習はしたし、やれることはやったと自分に言い聞かせて気合いを入れた。

いよいよ私が躍る順番がきた。私は、たくさん練習してきた成果

を出してやるという強い気持ちを持ち、始めのポーズをした。曲が始まると、自然に笑顔が出て、すごく楽しく踊っていた。あつという間に曲が終わった。緊張がぱつと消えて、やりきった達成感が感じられた。私はうれしかった。練習してきた成果を出し切れたと思ったからだ。

全員のダンスが終わり、待合室に戻った。待っている間はどきどきでいっぱいだった。きちんと上手に踊っていたかなと不安な気持ちでいっぱいだった。しばらく待っていると、コーチが部屋に入ってきた。

「結果を報告します。」

「るい」

と、私の名前が呼ばれた。これまででいちばんうれしい瞬間だった。終わったあと、すぐにお母さんに選抜メンバーになれたことを言った。お母さんはすごく喜んでくれて、私はそれを見て、さらにうれしくなった。なぜなら、お母さんは私のためにたくさんダンスのアドバイスをしてくれて、そのおかげで上手になれたからだ。本当に感謝しかない。

今回の出来事を通して、悔しい思いをしても、それを乗り越え、たくさん努力した分だけ成果が出るのが分かった。これからはダンスだけでなく、勉強、部活などにもたくさん努力して成果を出していきたい。